理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
内線350
成田西小学校
成田西小学校

理研会報によせる

荻須正義

武藤先生より印教研理科研究部発行の理研会報を送っていただくことができた。読んでみるとなかなか楽しい会報である。理科教育にたずさわる教師がそれぞれ自分の経験にもとづいて考えをのべている。だからその言おうとしていることがそれなりに生きている。

遠山小の柏熊秀先生の「理科室」もその一つである。日く、「教師が一切の準備を整えてあげしろ、こうしろとしずするのを指示実験という。問題解決のための実験なら……云々」表現はともかく、柏熊氏の言おうとしていることは実によくわかる。「子どもを兵隊にするな」と言うことだ。印西中の渡邊先生も小学校の先生に一矢むくいている。「しかしです。何かが欠けているのです。その何かをどう表現してよいか解りませんが……」渡邊先生もはっきりした考えの持主のようだ。しかし表現のしかたに紙面の足りないうらみがある。先生の言おうとしていることろは具体から抽象へ、主観から客観へ、その過程に子どもたちが科学することを学ぶのだ。数は抽象をあらわしている。公式もそうだと叫び続けているような気がする。理科と数学との関係を述べようとしてあせり過ぎた感もある。

「それはいつも数式によって語られたように思うのです。」云々なども。

渡邊先生の考え方に小学校のだれかがくいさがる論文を書いてほしいものだ。そして両者を合わせてより高次なまとまりを創ることが急務ではないだろうか。

現す知らずの先生は、私ごときが、でしゃばった口を聞いて申訳ないが、ただ一読したとき、思わずものを言いたくなったということでおゆるしを願いたい。

先生方にお願いしたいことは、理科教育のために、心理学とか思考心理学などの本を読んで下さい。わたくし達の研究の対象は小中学校に児童であり生徒であるからです。

印教理科教育の編集はわたしがやっておりますが、この本もみんなで読んでくださいませんか。そして、会費になって是非この雑誌に所感をご発表いただきたいものです。ご協力を期待しています。同行の志士として。

（東京教育大学附属小学校勤務）

三里塚飛行場を歩いて

六月八日、全く雲のない快晴に恵まれて三里塚は行楽の客でたちであふれていた。

第四回の理研会報で呼びかけた〃三里塚を観察しよう〃という問題は、成田山に来ていた教生を含めて九名。よその上ではさびしくはあったが、意外的に過ごした教師間はお一回としてはすばらしい収穫であった。

失われようとしている三里塚の自然は実に美しかった。

つんつんと競い合って、落らしげに紫の花を開いているキキョウソウの群落、この前の植物採集では雑草扱いだったツボミオオバコが、その青白い花柄を風になびかせて乱立しているのもみごとだったし、色を添えるようにヒメスイバの赤紅が点在し、そのカラフルな景観は、カメラマンの中村先生の指導師な意欲を満足させるとともに、青春な胃袋と残し得る夢がにちりばしてくれたのである。

もっとも、無理を失したマメグンバイナズナやタマナズナは捨すのに大へんなったし、あっても日陰で撮影に下向き、苦労して移植するという一幕もあった。

帰化植物のメッカとしての三里塚。そしてそこにある調和された自然。私たちは再び三たびその姿を探して、美しいもの、景観なものを学びとり得たような気がしている。そしてこの試みを来年二回も三回と続けていきたいと思うし、同じ事ねる毎に、そこに営まれている植物相互の働き合い、帰化植物の持っているバイタリティの根源、移りかわり、そんなところまでを読んで観ていきたいと考えている。

私たちは日頃はたしかに忙しい。

登校の際すでるべき新芽を利用して自分のすきな雪柳を植えて一年もするとみごとに開花させることのできるのも農民栽培の楽しみの一つである。さし芽の方法につい て述べてみたいとは思うが紙面の都合もあるので別の機会にしたいと思います。

さし芽後の管理が苗床上養参考江事になります。普通六月頃にさしたものは八月にはじゅうぶんに発根し芽えに生気を生じて来る。

その頃を見はからって三寸五分鉢が育苗箱に移植することが成長を促進するコツです。さし芽箱に入れたまま翌春までそのままにしておいたものとは比較にならないほどの成長ぶりを示します。宇部宮大の森谷教氏の著「農耕」には一ぽき六十粁以上のはすことはたやすいことであると述べているが農初めは不思議でならなかったので、森谷氏に電話したり著書を出したりしているうちと指導をうけることができた。解答をえた私は八月に移植した「高砂」を秋おそく二回うす霜にあててからフレームにとりこんで冬中管理すると一年本体みなく成長して現在四十糎位にのびている。

このようにさし芽が管理でその上成長も早く三年もすればみごとな花をつけるということは　また春早くづくりのよろこびの一つである。

こんなことを書いていると　いつつきるとも思しがないのでこの辺で筆をおくことにする。

最後に一よしやってみよう」と

記

○農科教育のために
　参考図書を紹介します
・理科図書解決のため M-4
　（その他初等教育研究シリーズ）
　教育大附属小学校編　文理書院
・走力を打ち出した
　理科の単元構成と展開
　（学宝別冊大型）
　日本初等理科教育研究会編集
　東京書籍教育図書K.K
・理科の能力と問題解決
　富山県上市町小理科研究部著
　東京書籍教育図書K.K
・自刊誌
　初等理科教育
　日本初等理科教育研究会編
　東京書籍教育図書K.K
　理科の教育
　日本理科教育学会編
　東洋館出版社

○教育大附属小の荻須先生からの宿題、私たちには大きな示唆を与えてくださいました。

「小学校のだれかが、くじとがって……」

わたしたちの研究の対象は、小中学校児童であり生徒であるから……」

大切なことだと思います。

なんぼろうではありませんか。

子どもたちのために。

○夏が近づきました。飼育や栽培の準備観察のシーズンです。